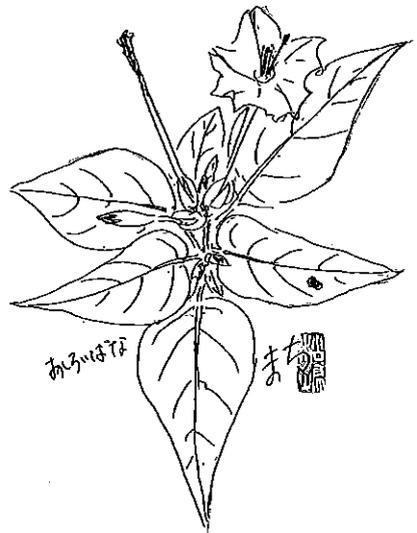


## 気持ちの良いあいさつ

「礼に始まり 礼に終わる」これは、剣道をはじめとする武道の精神・あり方について、“試合においては作法を守り、また相手への敬意を示すことが何よりも重んじられるべきである”ということを述べた表現です。もちろん、私達の生活でも“あいさつ”は基本中の基本で、欠かせないものです。

先日、放課後に廊下に出てみると、遠くの方から“こんにちは～”と大きな声であいさつが・・・「気持ちがいいな～、誰かなあ？」と思い、生徒玄関の方を見たのですが、薄暗かったためかぼんやりとしか見えず（廊下における目の老化現象だろうか？）すぐには分かりませんでした。そこで「誰かなあ？いいあいさつだね」と大声で尋ねたところ、通りがかりの女子

が「〇〇君です」と教えてくれました。「確かに彼は、いつも大きな声で、気持ちの良いあいさつをしているな」とあらためて感心した次第です。“あいさつ”は不思議なもので、わずか一言で気持ちよくなったり、逆に不快な気持ちになったりもします。“はっきりとした声で、姿勢正しくあいさつをする”これが何よりも“相手への敬意”につながるのは確かです。“気持ちのよいあいさつ”だけでなく、あらゆる場面で“相手への敬意を示す”ことのできる生徒が増えていくことを、心から願っています。



## 平和の誓い

先週の木曜日、南島原市戦没者追悼式があり、中学校代表として本校2年の立石すみれさんが「平和の誓い」を読み上げました。（代表は市内中学校が輪番で担当しています。）厳かな式典でしたが、臆することなく堂々とした態度で読み上げてくれました。その一部を紹介します。

私達は戦争体験を直接聞くことができる最後の世代だといわれています。私は実際に戦争体験を直接きいたことがありません。畑から原子爆弾のきのこ雲を見た曾祖母の話、ゼロ戦の整備をしていた曾祖父の話をもから聞きました。（中略）「戦争は人の夢、未来、人権を奪う。戦争はむごい。だから、戦争はしてはいけない。」では、戦争をしないために、私達は何をすればいいのでしょうか。この問いを考えることが、これから生きる私達にとって、最も必要なのではないのでしょうか。（中略）今私達にできることは、戦争で亡くなられた方々に思いを寄せ続け、亡くなられた方々が生きたかった今日、生きたかった未来を、精一杯生きていくことだと思います。戦争で犠牲になられた全ての御霊に手を合わせるとともに、今の幸せな生活に感謝し、戦争で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

生徒会黒板のメッセージ

**満足感 は 結果からではなく 過程にこそある**